

刊夕 日九十月十

常磐毎日新聞

定価 一部金五、二ヶ月金五、三ヶ月金五、半年金五、一年金五、五部金五、
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日印刷株式会社

— 新らしい句より —

木津 茂太郎

(2)

これは風景の句である。作者がたゞ眺めて出来た句である。「葛」といふ字と「萩」といふ字を二度重複したところに、單調になるべき句から救つてゐる。また、この重ねたリズムに依つて、花の其處此處にちらばつて居るのを表現してゐるのである。「山みち」と大きく切れたところもいゝと思ふ。

▲夕靄の青い石に咲いた野菊(銀汀)
これも鮮やかな句である。色彩感がよく出てゐる。「夕靄」やはらかな「石」の落ち着き、「野菊」のいぢらしさ——黄昏といふものをこ

竹に花が 咲くと枯れるのは 一時に澤山の養分を使ふから竹の花を凶兆とするのは迷信に過ぎぬ

ノート

の三つの物の融合し、所にいみじくも表現してゐる。又「青い石」といふ描寫がうまい。

前句・三郎氏の句を日本畫にたとへれば、これは油繪——しかもフランス後期印象派の繪である。

▲川へ便ひにおりる道の野菊も(寒來花)

やはり野菊の句。最後のものがうまい、何んだかかすりを着た子供がにこ／＼しながら遠い田舎の方へ行くやうである。

▲しらなみ濱の子は濱で 羽根つく(裸木)

私はこの句を讀むと、何

【朝】紅茶 カステラ
【晝】親子丼
【晝】野菜スープ煮
大根 人參 馬鈴薯 ねぎ 大根おろし 花かつを

年か以前の雅ない時代の事が憶はれて来る。それはどうしてかと言ふに、この句中のしらなみ、濱羽根と云ふ言葉が私に働かき掛けるからである。

私はあの小名濱が眼前に見えて来る。小名濱あたりの濱で、漁村の子たちが(勿論、女の子たちが)はるけき新春の光の中に楽しく羽根をついてゐるのが眼の前に泛んで来る。

無條件に秋はこの句が好きである。よくも裸木氏がこんなになつかしい情景を捉へて來られたものだと思ふ。

「みいちゃん—あんたの

番だよ」「さうかい」「下手糞だなア、みい坊は」「誰だいらんな事を云ふのは」「おいらいだ」「あら、健ちゃん、ひどいわ」「こんな個々の言葉が聞えて来る。

▲月夜がこちらをむくをんなの顔(せい、作)

これは最近の「層雲」に發表されたので非常な異彩を放つてゐる句だ。先づ作者は中島せい作と言つて、長年作句道にいそしんでゐられる人である。この人には「ひくらしを聴いて」と云ふ句集もある位で、中々の作家である。争はれないもので、この句の中にもその精進の跡が歴然と刻み込まれてゐる。

第一、かういふシーンを擷んでくることは實に容易でないと思ふ。かういふシーン普通の技巧で描寫すれば平凡なつまらない句になるに極つてゐる。さう云ふ視点から見ても、此の句は断然異色である。月夜である青白い月光である。此處は公園らしい。——その公園の一隅のベンチに男女がと云ふのは作者らしき人と女の人が腰掛けて話してゐる。作者とこの女性とは、失禮であるが戀愛關係らしい。楽しい語りひをいつけてゐる。と、戀人がぶつとこちらを向いた。その

蒼い顔、月がさしてゐるの
それが實によく出てゐる
女の顔の蒼い色まではつき
り出てゐる。月夜が、
蒼白さが來なのだ。

新築 落成移轉

永らく御不自由相掛け申し上げて居りましたが此度漸く落成移轉致しました。何卒倍舊の御引立の程御願申上げます。尚新舗二階の客間は御會食御家族同伴等江戸前式に設備致しました何卒御利用下さい。

平三(舊店舗跡)
玉壽司
電五七五番

外科科 一般

金成醫院

金成 忠義
平鎌田町(電三五八)

吸入用酸素純度 99%

モノサシ
マ ス
ハカリ
器量計
體溫計
寒暖計

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

関内藥局

電話四〇番
寫真材料一式販賣致シマス

貨切の御用命は

ぜひ・三井自動車部へ!!!

電話六八五番

◎乗合は好問、合戸、澤渡方面行

磐城セメント會社特約店

久全商店

磐城平町五丁目 電話九番九九番
◎良品廉賣に勝る商略なし
◎確實敏捷は久の生命なり

意匠登録 第六三三七八號

透明障子紙

▼本品は室内用、室外用の二種あり
▼室内用は張方従来の通り生熟糊にてよろし
▼室外用は特に室外用ノリにて張ればよろし
▼本品は硝子、セルロイド以上の優秀點を具備す
▼雨と風との神様が兩神一緒に暴れても室外用は平氣なり
▼現品は普通障子紙巾にて(長さ九メートル) 備す
◎定價
▼室内用 六十錢
▼室外用 八十錢
◎室外用ノリ 一罐 二十錢
平町四丁目

夕伊勢屋 阿部商店

電話四五番
賣弘め中粗景手拭一本呈上

中村齒科醫院

平町 鍛冶町七

俄然米價下押す

拂下米や初解除が響く

既報平穀物検査所管内の米價は市場の品不足から本月に入ると同時に高値に飛び八日には遂に一石に付三十圓三十錢、一升卅一錢の高値を唱へて需要者を驚かし、たが以後政府米拂下に相次ぎ近々濡米が入荷する管であり夫れに來月二日より郡下町村の初貯蔵一齋解除を控え十三日より俄然下押しとなり一石廿九圓五十五錢に落ち更に本十九日の米價現況は廿九圓五錢、一升二十九錢五錢の値下りにて更に押氣配濃厚であるが前月同日の市價より未だ一石當り一圓五十錢高く昨年同日よりは實に八圓五十五錢の高値を見せて居る

農村不況

對策を協議

けふの町村長會

町村長會石城支會總會は十九日午後一時から平町役場會議室で開催、青沼平町長議長席に着き農村不況對策外十數項を協議したが特に不況對策は時節柄頗る慎重を以て左記の点に就て熟議した

- 一、縣道改修並に林道工事起工
- 一、國有林廉價拂下並に代金延納陳情
- 一、低利資金の融通
- 一、縣農工銀行に對する資金融通高利債借替
- 一、政府米價拂下並に代金延納申請
- 一、凶作地免租申請
- 一、渡邊倉庫申請
- 一、渡邊村信用組合の農業倉庫

査所に申請中

卓球研究

平協會主催

平卓球協會は來月十一日川前村地内日立電力會社發電所内に卓球の研究及び競技會を開催するが當日は午前八時半迄平驛前に集會自動車に分乗して出發する豫定希望者は平稅務署へ申込みれ度いと

教員檢定委員

篠山平第一、津田第二、赤津第三各校長は來る二十二日より五日間平第一小學校講堂に於て執行される小學校教員及び幼稚園保母檢定試験の臨時委員に警女教諭永島磯惣太氏は同體操實科臨時委員に各囑託されたが縣よりは宮田縣囑が出張する由

免租地豫想

郡下に六千筆

△…町村長が連判状

石城町村長支會調査により今年度減收免租地(豫想)は左の如く三坂組合村の二千三百五十筆、百六十四町八反を筆頭として合計二十一ヶ町村、六千二百五十九筆、二町五畝、税額三千八百八十圓の多きに達し悲惨極り

ない農村の現状を如實に見せてゐる(畝單位、以下切捨括弧内は筆數)

泉九(二)渡邊三三〇(五)

一(植田二〇三)(一四)山田二六二〇(七九)上遠野四三〇(七一)入遠野二九川部五七(一六)田人組

- 合四九七四(一六八二)飯野六二(二二)玉川二四八(二八)磐崎一七〇(一一)湯本五二(三)内郷一五〇(一五)永戸組合二二〇(四〇)三坂組合一六四八(二三四四)神谷二〇〇(二)草野一〇(一五)大野二二〇(三五)平窪一一〇(五〇)六(不)小川組合五八九五(三〇〇)川前一

五二七〇(七三〇)なほ町村長會では之等免租の取扱ひに關しては成るべく農家の實狀に即して公正な處置を仰ぐべく今十九日唯野平稅務署長を平町役場に招き種々懇談するところあつたが近く日を改めて町村長連署の陳情書を大藏當局へ提出する模様である

收穫期迫り

匡救工事投げやり

監督所が至急着工方督勵

平土木監督所は目下町村匡救工事の督勵中で現在の海岸港灣工事は順調に進捗してゐるが農村方面の道路工事は未着手の町村が大半を占め折柄收穫季を控へて更

農繁期に總動員

穀檢所員の農業經營指導

平米穀検査所では愈々郡下各農村の農繁期が迫つたので全所員を動員して生産米の改良受檢米の奨励共同受檢場の申請農家の豫算編成等農家經營の指導に當る事となつたので松本所長以下所員の受持を左の如く決定した

(松本所長)平 飯野 夏井 高久 好間(吉田吉之介)小川 平窪(丹忠義)玉川 鹿島(鈴木義治)神谷 草野(和泉一郎)渡邊 泉

小學校の衛生研究

本年は第三校に開く

平第三小學校では來月七日縣主催で同校に催される郡下小學校衛生研究會に縣の小野寺衛生主事が出席する

外郡下小學校校長並に衛生係訓導百餘名が參會するので此際同校の衛生施設を紹介する爲め今回全訓導が研究

優勝旗再び

平第二校に輝く

▽…警女の繼走に優勝

昨日の警女陸上運動會は午後四時過ぎ盛會裡に終りを告げたが人氣を蒐めた小學校兒童百米及び四百米繼走決勝は午後三時十五分開始百米は植田小學校、四百米繼走は平第二校各優勝し榮ある優勝旗は今年再び平第二小學校の手に歸した因に戦績左の如し

△百米 植田 北郷春江

尚各警女學年對抗競技の得点は一年二九、四年二二、二年二〇、三年一九の順で優勝旗は一年に授與された

集配狀況を

戸石平局長視察

戸石平郵便局長は管内各町村局員の郵便物集配狀況を視察して能率増進を計る事となり本日(廿七日)迄各町村に出張視察を行ふと

高麗橋の協議 平町土木委員會は二十二日午後一時から開き二十八日の高麗橋竣工式に就き關係區長と協議を行ふ

平商卒業生の

就職狀況調べ

平商業學校に於ける卒業生は大正五年三月第一回の二十八名を最初に現在迄八百五十四名に達し内五十九名の死亡者あるが卒業生の就職狀況は左の如くである

自家營業三七九 個人商店一二五 銀行一六

△北白銀町 鈴木保雄氏長 男病雄さん

△十五丁目三〇 岡野辰次郎さん二女トシ子さん

平町人事

- 三 官衙五〇 修業中一
- 一 兵役一二 其他五五

中等 教員野球大會

一、日時 十一月三日(明治節)午前十時半
 一、場所 縣立磐城高等女學校々庭
 一、参加 磐中 磐女 平商各校教職員
 一、方法 優勝旗爭奪軟式リーグ戦
 主催 常磐毎日新聞社
 後援 磐陽野球聯盟
 同 平町軟式野球協會

二年連勝の 野望空しく

平署覇權を譲る

僅かに氣を吐く遠藤熊田

第二十回縣下警察官武道大會は昨十八日午前八時から福島市武徳殿で舉行されたがこの二年連勝の野望を抱いて出場した平署軍は高松四段を失つた痛手を物ともせず覇權の前に突進したが時利あらず剣道は六段で僅か「一本」の差で優勝を逸し、柔道又第二位に甘んじ十数年ぶりに平署に恵まれた榮えある優勝旗はまた

殺人被告に

辯護士の友情

既報双葉郡新山町大字前田字善能寺一六、農石橋宗助(二)が去月十一日飲酒口論の末同郡大野村大字上野上國有林内居住渡邊耕三郎氏(三)の左肩脚部左上肢部及

判長係り關白、香西兩判事陪席檢事立の下に公判開廷する事になつたが前記宗助が貧困のため辯護士を依頼出来ぬを耳にした同人の小學校當時の友人で目下東京市日本橋區に辯護士を開業してゐる佐藤勇氏は自費で辯護する旨届出た由

演習参加

平商が出發

平商五年生六十五名は既報の如く明二十日早朝より安積の野に展開される縣下中等學校聯合演習参加の爲め本日午前九時發着越線下りで駒場配屬將校麻原教官引卒服部教頭附添の下に出發

山崎與三郎翁の

病氣漸次快方!

平町の聖者を以つて人々より崇敬されつゝある古鍛冶町山崎與三郎翁は先般來心臓を病み慶應大學病院入院加療一ヶ月餘に及んだ結果脈搏常態に復し体重も増して漸次快方に向つた爲め此程歸郷靜養中であるが此際絶對安靜に依り順調なる容態を持續せんと主治醫清水醫學士の注意に基き人々との接見を禁止されて居る

人妻家出

平署へ三件

人妻の家出相次ぐ、けふ平署に搜索願三件
 茨城縣大貫町字藏前忠七妻佐藤さき(四)去月七日土

明日の天気
 今晩も明日も北西の風晴曇半し
 温度下降す

今晚の部
 後六、〇〇 子供の時間道歌とお稽古 子供のテキ
 スト十月號童謡ダン道子
 後六、二五 基礎英語講座
 (十五)岡倉由三郎
 後七、三〇 講演「法律よ
 り見たる文學」東北帝大
 教授法學博士藤本正晃

明日の部
 前六、三〇 基礎獨語講座
 岡本修助
 後八、〇〇 東海道演藝道
 中解説阪東繁助
 後九、〇〇 箏曲小督越野
 榮松外
 後九、三〇 時報 ニュー
 ス 氣象通報 番組豫告

前七、〇一 聖典講義「阿
 含經」(五) 大圓諦
 前八、〇三 第十五回赤
 十字國際會議實況 芝公
 園日本赤十字社より中繼
 後八、〇五 獨唱とギター
 菅野のぶ子
 後八、二〇 神樂囃子 笠
 鳥道祖神々樂「天の石窟
 戸開舞」解説 松浦辰治
 後八、五〇 海軍大演習聯
 合艦隊陸戰隊觀兵式御模
 様 大阪城東練兵場中繼
 後二、五〇 ラクビー試合
 實況(東都七大學ラグビー
 一戰)神宮競技場中繼

後三、〇〇 野球試合實況
 「六大學リーグ戦」神宮球
 場より中繼
 後六、〇〇 (子供の時間)
 お話「小學校を卒業した
 ら」科學博物館長
 秋保安治
 後六、二五 英語講座(三
 の五) 岡田哲藏
 後七、三〇 講演「實業教
 育五十周年に際して」文
 部大臣 松田源治
 後八、一〇 講演「見えた
 か甚兵衛」 神田伯龍
 後八、三〇 物語松井翠聲
 後九、〇〇 時事解説
 清、佐藤豊之助、横山松
 次、新妻忠藏

兒童競技各係

既報
 來る二十一日磐中グラ
 ンドに開催する第三區兒童競
 技會の委員會は昨日午前十時
 より平第一小學校に開かれ
 當日の各係を左の如く決定
 した由

平商の義捐金

平商
 の職員生徒は本日關西地方
 に於ける風水害義捐金とし
 て三十一圓を送金した

平商郊外運動

平商
 は來る二十六日全校生の郊
 外遠足運動會を催すと

山間村の賭博事件

被告卅八名の多數

既報石任、貝泊兩村に於ける賭博事件は過般來平檢事局に於て吉岡檢事係りの下に取調中の處此程左記卅八名が有罪と決定起訴され近く關口判事係りの下に審理の上それら處分される

菅野肇、菅野務、小松名廣、菅野七之助、御所脇虎吉、鈴木徳太郎、鈴木吉次郎、佐久間ミツオ、

菅野肇、菅野務、小松名廣、菅野七之助、御所脇虎吉、鈴木徳太郎、鈴木吉次郎、佐久間ミツオ、

菅野肇、菅野務、小松名廣、菅野七之助、御所脇虎吉、鈴木徳太郎、鈴木吉次郎、佐久間ミツオ、

草野野菜料理

草野
 村補習學校は本十九日より三日間前宮内省大膳職庖丁師範家土肥禮助氏を招へて野菜の料理講習會を開くと

浮世の比喩

（警務署上級上級）

田邊南龍（作）
山本英春（書）

一六二

スラ／＼と白状

「夫れは最と安事、私も其の位の事はしてやりたいと思つてゐました、持参なれば寺内に埋め、必ず後世の菩提を弔つて進せる」瑞川が權八の亡骸を寺内へ葬る事を承諾して呉れましたから長兵衛も大きに喜び、禮を述べて立戻りました。

さて平井權八は、小紫にも面會を致し、長兵衛、瑞川の二人にも別れを告げましたから、之にて思ひ残す事は少しもないと北町奉行甲斐庄飛騨守のお役宅へ恐れながらと、訴へ出でました、まだ御門が開いたばかり公事の時刻には至りませんから門番が「コレ／＼控へろ、差越し願ひはならん、順を以て願へ」

「恐れながら私は豫て人相書を以てお尋ねの平井權八にございませ、先頃大阪町御奉行所へ自訴いたし、囚人となり、江戸表へ差下されし處少しく心掛りの用事乏れありました爲めに、藤澤の宿にて出奔仕りましたが最早用事も片付き、身の埒も明きましたるに依つて只今又復當役所へ訴へ由で

ました、重惡の罪逃れ難く覺悟相極の罷りありますれば此の儀御披露下さるやう願ひ上げます」
「イヤ夫は／＼、暫時控へるやう早速下役よりして其



くの御上御役人様方に御苦勞を相掛け申譯がございませ、最早覺悟いたしたまはしたる權八、何卒重き御處刑の程願はしう存じまする」
「ウム、神妙の至りぢや」
そこで早速共犯者で前に御召捕になつてをりました竹永半左衛門 本目庄八を御牢内より引出しになりまして、双方立會の上お調べがございませ、竹永、本目の二人は長らく御牢内にをりました事ゆゑ髪途々と生へ

の趣きを甲斐庄飛騨守様へ申上げる、さういふ大罪人の事ゆゑ、時刻まで待つ譯には参りませ、早速お白洲を開いて
「其方が權八と申すか、天網逃れ難きを知つて訴へ出たと申すか」
「御意にございませ、長

瘦衰へて見る影もございませ、そこへ行くと權八の方はお尋ね者で苦勞をいたしてゐるが、今まで娑婆に居つた者でございませから髪も梳り髻も剃つてゐる殊に性來美男の男、大層な違ひでございませ、二人は權八を見ると怨めしうな顔

をして
「平井、御身は今まで何處に何をしてをつたのだ、我々二人は御身ゆゑに卷ぞへを食ひ、長の年月牢獄に苦しみ、見られる通りの情ない姿になつた、同じ助からぬ命だ、御身も早く自訴して我々のこの苦しみを救つて呉れても宜かつたらうに……」
「さうだ、平井、貴公の不人情には我々二人怨んでゐるぞ」
權八は大口開いてカラ／＼と笑つて
「止せ／＼男らしくもない怨みなどは止せ、此の權八は浮世に用事がある故、今が今まで御上に御厄介を掛けてをつたが、モウ其用事が済んだから斯うして自ら訴へ出たのだ貴様達が此の苦しみをするのを何か拙者の故のやうに申したが、貴様達は元々主人の金を使ひ込み、夫れが爲に御召捕になつたに、破牢までした大悪人だ」

◎御家庭薬として是非御用意下さい
熱い湯や火でヤケドなされた時直ぐツケますればヒブクレにならずなほります
キリ印太乙膏があれば安心です、お試用見本無料で差上げますからドウゾ御遠慮なくいらして下さい。殊にクサにはモットモ良く二、三回ツケればキレイに治ります。

キリ印 ヤケド キリキズ
ハクサ はたのアレ
シモヤケ たぐれ

太乙膏 専賣店
平町古鍛冶町一〇

阿康薬舗 電話四四番

書道用半紙
厚口……一帖八錢
薄口……一帖五錢
畫仙紙
白唐紙
二双紙
色紙。短冊。畫帖。
各種取揃へてございませ

マルトモ
柴田書店
平町四丁目
電話二二四番
二三四番

御障子紙
一本(四枚張)金廿五錢
是非御用命をお待ち申して居ります

看護婦急派
の求めに應じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

開業御披露奉仕
お酒に三品(外取)
永年谷口樓でお得意様の御用を勤めました。が今回左記の通り開業致しました。何卒御ひるきを願ひませ。

平町新田町
三日 松 富
開業 電話二四七番

耳鼻咽喉科専門
鈴木醫院
醫學士 鈴木 正 男
平町田町(電話五八番)
藤田女學校前

入院のお需めに應ず
自炊の便あり
内科 小兒科 花柳病科
藤沼醫院
平町紺屋町 電話五〇七番

体温計の検査日です
10 検新 機設 お宅の体温計は?
◎正確な体温計を御使用下さい
◎毎月十日の検査日御利用下さい

度量衡 指定販賣人
計量器 **西村屋藥局**
電話三番